

笑顔と元気あふれる住みよいまち田布施

たぶせ



THE TABUSE ASSEMBLY NEWS

議会だより

第124号

題字は岸 信介先生書

2015年(平成27年)1月23日

発行/〒742-1592 山口県田布施町大字下田布施 田布施町議会 ☎0820(52)5800 FAX0820(52)5970

編集/議会広報広聴調査特別委員会 印刷/キッショウ株式会社

<http://www.town.tabuse.lg.jp/> E-mail:gikaijimukyoku@town.tabuse.lg.jp



平成27年 成人式 (新成人151人)

成人式は、1月4日午後1時から西田布施公民館で挙行されました。この日、町長と新成人代表により稲荷山公園にソメイヨシノを記念植樹しました。(写真下)



12月定例会	2
委員会レポート (総務文教・経済厚生)	4
一般質問 町政の課題を問いました	6
特集 麻里府小学校統廃合	13
議会だより123号を読んでの感想です	15

12月定例会

指定管理者制度を議決

平成27年度から3年



本 会 議 (12月11日)

平成26年12月定例会は12月11日から9日間の日程で開会しました。本定例会では、専決処分1件、補正予算5件、条例6件、その他6件、委員会提出議案1件、請願1件及び陳情2件の合計22件を審議しました。初日の本会議では、7人の議員が一般質問に登壇しました。

町長提出議案

専決処分

一般会計(5号)

衆議院議員選挙に伴い
予算総額60億6657万
7千円とするものです。

【全員賛成】

補正予算

一般会計(6号)

歳入歳出それぞれ1億
3263万6千円増額し、
予算総額61億9921万
3千円とするものです。

主な歳入

国庫支出金(介護・訓練
等給付費)
940万9千円増

県支出金(再生可能エネ
ルギー等導入推進基金事業)
4320万円増

財政基金繰入金
5700万円増

主な歳出

身体障害者福祉費
3779万9千円増

保育所費

1065万8千円増

公民館費

4881万2千円増

【全員賛成】

一般会計(7号)

麻里府小統合のための
経費で700万円増額
し、予算総額62億621
万3千円とするものです。

【全員賛成】

特別会計

国民健康保険

高額療養費等の増によ
り416万円増額し、予
算総額20億7975万7
千円とするものです。

【全員賛成】

下水道事業

鳥越のポンプ修理等に
より37万8千円増額し、
予算総額9億2677万
1千円とするものです。

【全員賛成】

介護保険

認定調査の臨時雇賃金
等によるものです。

【全員賛成】

条 例

町職員の分限に関する手
続及び効果等に関する条

例の改正

病気休暇における結核
性疾患の特例を国に準じ
て廃止するものです。

【全員賛成】

町奨学金条例

貸付額の引き上げ、償
還期限の見直し並びに条
例体系及び条文の整理を
行なうものです。

【全員賛成】

町国民健康保険条例の改正

産科医療保障制度にお
ける掛金の額が見直され
たこと及び出産育児一時
金の総額の42万円を維持
するものです。

【全員賛成】

◎次の2条例は、地域主
権一括法による介護保険
法の改正により条例委任
事項を定めるものです。

町地域包括支援センタ
ーの人員及び運営等に関
する基準を定める条例

【全員賛成】

町指定介護予防支援等の
事業の人員及び運営並び
に指定介護予防支援等に

新年のあいさつ

政治に関心を



副議長 清神 清

今年是被爆 70 年、町制施行 60 年の記念すべき年を迎えました。

昨年は突然の衆議院解散、総選挙があり、新たに第三次安倍政権がスタートしました。四月には統一地

方選挙もありますが、若者の政治への関心が薄れ、投票率も徐々に低下しています。少子高齢化と人口減少が進む中、地域の伝統行事の継承も危ぶまれてきています。こういう時こそ政治に関心を持ち投票に足を運ばなくてはなりません。

高齢化社会を生き抜くために地域の絆を深め、若者とのコミュニケーションを図ることが求められています。

年頭の辞



議長 藤山 巖

新年おめでとうございます。年頭にあたり皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

地方自治体は社会の急激な少子高齢化に伴う社

会保障費の増大と人口減少による税収減等が相俟って、かつてない遣り繰り算段の財政運営を強いられています。あたかも本町は、今年新生田布施町誕生 60 周年を迎えます。

この節目にあたり議会は、これら山積する諸問題に真面目から取り組み先達に恥じない信頼される議会人として町政と向き合っていく所存です。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例

【全員賛成】

町地域交流館の設置及び管理に関する条例の改正

出荷者登録料、年会費、

出品料に出荷者の住所や

生産地等が町内か町外かで差を設けるものです。

【全員賛成】

指定管理者の指定

平成 27 年度から 3 年、指定管理者を指定するものです。

田布施町のんびらんど・うましま

【全員賛成】

田布施町地域交流館

【全員賛成】

たぶせ特産加工センター

【全員賛成】

小行司特産加工センター

【全員賛成】

田布施町心身障害者福祉作業所

【全員賛成】

田布施町高齢者介護予防センター

【賛成多数】

議会提出議案

町議会委員会条例の改正
議会広報広聴調査特別委員会を常任委員会にするものです。

【全員賛成】

◇趣旨採択とは
請願等で願意は妥当だが、実現性の面で確信が持てない等の場合に採られる請願等に対する決定の方法。



あなたの要望はこうなりました

請願

●町道上ゲ線、町道上ゲ西線の改築に関する請願

(提出者) 上ゲ自治会長

田中哲雄

【採択】

陳情

●田布施町農業委員への女性登用に関する要望書

(提出者) 田布施町農山漁村女性連携会議

会長 西田節子

●議会基本条例制定に関する陳情

(提出者) 田布施町まちづくり研究会

代表 國本悦郎

【趣旨採択】

委員会レポート

総務文教

総務文教委員会を12月17日に開き、専決処分1件、一般会計補正予算、条例2件、陳情1件を審査しました。陳情の審査では提出者を参考人として招き、議会基本条例の必要性について話し合いました。また、委員も条例を制定している町への視察研修などを話しました。

専決処分

一般会計補正予算

【全員賛成】

補正予算

一般会計

Q 60周年記念事業の空撮機器とはどんなものか。

A リモコンヘリコプターにつける撮影用機器でカメラとDVDカメラが取り付けできる。

Q 60周年で作成したDVDを見る機会はありますか。

A 記念式典で上映し、来賓等に配布する。

Q 田布施公民館にソーラーパネルを付けるが他に予定があるのか。

A 県にスポーツセンターと馬場を申請しているが、未定。

Q マイナンバー制度は

来年から始まるのか。

A 27年10月に採番号し、通知予定。

Q 番号が悪用される危険はないか。

A 準備が遅れているシステム改修セキュリティの強化をしている。

Q 住民への周知がしっかりしていないと高齢者がよく詐欺にあっている。

A 今後、広報に努める。

Q 庁舎にエレベーターがないので、高齢者がよく利用する窓口は1階に持つていけないか。

A できるだけそうしていきたい。

Q 庁舎のトイレを洋式に変更して手すりを付けてはどうか。

A 計画的に対応したい。

【全員賛成】

条例

町職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の改正

【全員賛成】

町奨学金条例

Q 大学から帰って町内に就職した場合、償還金は2分の1でいいのか。町外に就職した場合は全額償還なのか。

A 若者の定住を目的として本町に若者を呼び込みたい。本町に帰ってくれば償還は半分で済む。

Q 利用が多すぎた場合基金への補填はどうするか。

A 利用状況を見て考える。

Q 大学院に行く場合は奨学金の対象か。

A 対象でない。

Q 留年した場合はどうなるか。

【全員賛成】

A 卒業まで償還は猶予される。

陳情

議会基本条例の制定に関する陳情

提出者は議会基本条例の必要性を現在では議会として機能していないのではないかと等、議会への要望を挙げて説明された。委員からは「視察先の筑前町は条例制定に5年、視察も行うなど時間と経費をかけている。」「条例制定による主な違いは3つで反問権、通年議会、議会報告会。しかし、うまくいっていない場合もあるため、制定は慎重にする必要がある。」「基本の地方自治法をしっかりと勉強して、まちづくりをするのが良い。」等の意見がでた。

【趣旨採択】



豊後高田市の昭和の街並み

総務文教視察研修レポート

住みたいまちをテーマに大分県豊後高田市を11月5日に、議会基本条例の研究のため翌6日に福岡県筑前町を視察した。

豊後高田市の定住促進策

- ① 空き家バンクに加えて空き宅地も有効活用
- ② 3つの定住関係サイトがあり定住を支援
- ③ 学びの21世紀塾を開塾（市の運営無料）

未来を担う子供の育成に支援策がなされ、学力は大分県内トップ、他にも婚活・結婚応援事業、健康づくり事業など支援事業が充実している。

観光においても昭和のまちと銘打って昭和30年

筑前町の議会改革

平成17年に2町合併で人口3万人弱の議員定数28人の筑前町が発足した。19年の合併後初めての選挙で定数18人、23年の2回目は16人となる。

議会基本条例の取り組みは19年に北海道栗山町議会を視察し、20年に議会活性化検討委員会を発足した。23年の選挙後に第二期議会活性化検討委員会を引き続き議論され、24年に議会基本条例が可決された。条例は議会の活動原則、町民と議会の関係、町長と議会の関係などについて条例化した町民に明らかにしたものである。

経済厚生

経済厚生委員会を12月15日に開き、一般会計補正予算の予備審査と特別会計補正予算3件、条例3件、指定管理者の指定6件を審査した結果、指定管理者の指定2件（地域交流館、高齢者介護予防センター）は継続審査となりました。19日に再開した委員会では地域交流館に関する条例の提案、高齢者介護予防センターの資料提出を受け、条例1件及び指定管理者の指定2件は可決されました。



経済厚生委員会

特別会計

国民健康保険

Q 高額療養費は昨年と比較してどうか。

A 昨年度同時期に比べ720万円多い。

下水道事業

【全員賛成】

介護保険

Q 地域密着型サービス運営委員会の人数は。

A 8人。

【全員賛成】

補正予算

一般会計（予備審査）

Q 砂田住宅の借地は残っているか。

A 地権者2人分残っている。

Q 肺炎球菌接種済みのシールを貼る健康手帳は役場にもあるのか。

A ある。

【全員賛成】

条例

町国民健康保険条例の改正

Q 自宅出産の場合も一時金が出るのか。

A 40万4千円が支給される。

【全員賛成】

町地域包括支援センターの人員及び運営等に関する基準を定める条例

Q 介護予防の相談はどれくらいあるのか。

A 1日約20件、年間約8200件ある。

【全員賛成】

町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例

【全員賛成】

追加議案

町地域交流館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

19日【全員賛成】

指定管理者の指定

のんびらんど・うましま

【全員賛成】

地域交流館

Q 利用料を町内より町外は5%高くしては。

A 条例を改正する。

19日【全員賛成】

Q 冷蔵庫は活用されているか。

A 活用されている。

【全員賛成】

小行司特産加工センター

Q トイレはまだできないのか。

A 国・県の補助事業を考えている。

【全員賛成】

心身障害者福祉作業所

Q ゴミ袋を販売する等収入源を考えてみては。

A 検討する。

【全員賛成】

高齢者介護予防センター

Q 事業計画・目標等計画書を提出しては。

A 詳しい資料を出す。

19日【賛成多数】

請願・陳情

町道上ゲ線、町道上ゲ西線の改築に関する請願

【採 択】

田布施町農業委員への女性登用に関する要望書

【趣旨採択】

経済厚生視察研修レポート

11月19日に観光戦略について佐賀県鹿島市を翌20日に介護予防について長崎県佐々町を視察した。

鹿島市の観光戦略

鹿島市は佐賀県の南西部に位置し、人口約3万7000人の市である。豊富な観光資源をもとに「かしま観光戦略プラン」を策定し有明海など自然と伝統ある地元の酒蔵を結び市内での回遊性を高め長期滞在してもらえようという観光地になっている。

佐々町総合福祉センター

佐々町の介護予防施策

佐々町は長崎県の北部に位置し、人口約1万37000人の町である。4年前、国に先駆け介護予防と日常生活支援事業を総合的に行う事業を始めている。特徴は介護予防ボランティアを育成して住民参加の事業運営をしている。その結果、介護保険の認定率が4年前の20・9%から16・4%に下がっている。





12月定例会
一般質問

7人の議員が町政の課題を問う

一般質問

一般質問は、町政全般について、町長など執行機関の考え方や方針を問いただすものです。ここでは紙面の都合上、質疑の中から内容の一部要旨を掲載しています。

「地方消滅」を

どう読み解くか

高川 喜彦

日本一住み良いまちづくりに邁進する
長信町長



高川 喜彦 議員

【A】地方消滅は自治体が消滅するのではなく人口減少や少子高齢化で、地域の活力が失われ町政運営が難しくなることをいうもの。私は財政の健全化と日本一住み良いまちづくりを進める。来年度策定する後期基本計画と地方創生戦略で「選択と集中」を徹底していく。

【Q】増田寛也編著「地方消滅」という本が出版された。減少を続ける若年女性人口のデータをもとに導きだされた日本の未来図を描き出し、「2040年に896の自治体が消滅しかねない」と警告している。町長、執行部の皆さんは本書をどう読み解かれるか。



増田寛也編著「地方消滅」の書

無電柱化

本町はどう取り組むか

高川

国の指針にそって対応 町長

【Q】政府は、景観の向上や大地震発生時の倒壊で交通の妨げになるのを防ぐため無電柱化推進をあげている。国の推進計画には、期間や目標を定め、政府は必要な財政、税制上の措置を講じ都道府県や市町には計画作成の努力義務を課す。本町の取り組みは。

【A】無電柱化推進法はまだ成立に至っていない。交通安全や景観形成に支障となる電柱をなくして電線を地中に埋設する「無電柱化」を進めやすくするのが狙いとされている。法案成立後、国交省から具体的計画推進の指針等が示された段階で対応する。

問題行動調査

学力向上の課題を問う

高川

不登校が課題

尾崎教育長

【Q】①文科省は平成25年度児童生徒の問題行動調査の結果を公表した。本町の児童生徒の状況についていかがであったのか。

②「私たちの道徳」という教材について尋ねる。この教材はどういう内容のものか、またこの活用はどうしているのか。

【A】①「問題行動調査」は「暴力行為」は小学校では該当無し、中学校で7件あったが最近では学年全体も落ち着いている。「長期欠席」は中学校で23名あり最も苦慮している。

②「私たちの道徳」は学習指導要領にそった教材である。

美しいまちづくり宣言

都市宣言を

松田規久夫

考えていない

長信町長



松田規久夫 議員

Q 田布施町60周年記念事業の一環として、都市宣言を提案する。まちづくり宣言は美しいまちづくり推進条例を実施するため、町民への呼びかけに最適だ。町のトップとして田布施町の存在を日本中に示すよう決意表明して欲しい。

A 現在、美しいまちづくり宣言は考えていない。田布施町には平成13年に制定された美しいまちづくり推進条例がある。美しく魅力ある景観や環境を作るため、町民への協力呼びかけとして新たな取り組みが必要となれば検討する。

◇都市宣言とは

自治体として自己の意思、主張、方針を内外に表明すること。首長の声明、議会の議決などであり、必ずしも議決が必要とされていない。



県花いっぱい運動（3年連続知事賞）

住民説明は

麻里府小学校統合

松 田

4月1日に統合

町 長

尾崎教育長

Q 学校は地域の核である。地域代表や保護者との話し合いが、教育委員会による説得となっていないか。町による麻里府地区7つの自治会住民への説明会を提案する。今後の麻里府公民館の扱いと学校跡地利用もお尋ねする。

A 4月1日の麻郷小学校への統合に向け諸準備を進めている。意見交換を

重ね、保護者、地域連合自治会から統合の了解を得ている。麻里府小跡地の活用、地区の振興策は

地域の人と十分協議し、重点施策として取り組む。

地域おこしとして

古民家で地域活性化

松 田

空き家の実態調査して

町 長

Q 100年経過の古民家で地域おこしはできないか。若者は田布施に定住できない。都会へと働く場を求めている現状だ。

都会には田舎生活に憧れている人もいる。空き家対策と地域活性化の両面から、古民家の利用を提案する。

A 国の「空き家等対策の推進に関する特別措置法」、県の「山口県空き家対策連絡会」の方針により実態調査を行う。古民家も含めた空き家の利活用の可能性を把握する。所有者との協議が整えば、地域活性化に繋がっていく。

麻里府小学校放課後子ども教室
(文部科学大臣表彰)

電動車いす

ナンバー導入を

清神 清

メリットがある 長信町長



清神 清 議員

Q 手軽に乗れる電動車いすを利用される高齢者が増えている。免許は不要で歩行者と同じ扱いになっているが、重大な事故も発生している。下関市

ではナンバーステッカーを導入して成果をあげている。田布施町でも事故防止のため早急に取り組む必要があるがいかがか。

菊川町電動車椅子利用者
安全対策連絡会提供

ほ場整備

進捗状況は

清 神

工事期間を見直す

町 長

Q 現在、国営ほ場整備事業が業者不在のため、入札できない状態が中断されている。中西区のは場も業者が決まらず、雑草が茂り、補助金を出して草刈り作業をさせ、来年は耕作するように指導している。追加事業として他地区も推進しているが、今後の見通しはどうか

A 6月から順次入札の公告を行ったが、昨年の県下の豪雨災害復旧等の影響により入札不調が続いており、予定地区の工事期間の見直しを行い、地元説明会を実施している。新規団地の推進状況は、計画変更時期に間に合うよう、合意に向けて検討を始めている。



荒れたほ場整備予定地

A 町内でもよく見かけるようになった。法令を認識されていない方が車道を行き交う自動車の事故にあって、夜間の利用が危険なものもある。地域で見守ることにより、一定のメリットがあると考えられる。警察等とも協議しながら安全対策の方法を検討する。

有害鳥獣

補助金見直しを

清 神

検討する

町 長

Q イノシシの被害が多発し、耕作放棄地が増加の一途をたどっている。農家は働く意欲をなくしている。佐賀県鹿島市では駆除期間が勿論、狩猟期間においても駆除期間の半額を補助し、成果をあげている。田布施町でも補助金を出し、捕獲強化を図ってはどうか

A 本町の有害鳥獣捕獲の補助金は鳥獣駆除を目的として交付しているが、狩猟期間に補助を行っていない。しかしながら県内では山口市、近隣の平



捕獲されたイノシシ

生町、周防大島町です。で実施している。情報を収集し、捕獲頭数の増加につながる効果的な対策を検討する

子ども子育て支援新制度

町の計画は

西本 篤史

移行を検討

長信町長



西本 篤史 議員

Q「子ども・子育て支援新制度」は、保育の質の向上や地域支援の充実をする。何施設が認定こども園に移行するのか、保育料は上がるのか、下げては。事業者の負担、給付費、(委託料)は変わるのか、ママカフェを作ってはどうか、窓口を一本化してはどうか。



子育て支援センター012たぶせ



A 私立幼稚園2施設が5年以内に認定こども園への移行を検討。保育料は、現行と同水準。施行後5年間は幼稚園教諭免許状又は保育士資格者は、保育教諭に。委託料は増加する。ママカフェは子ども子育て支援センターで取り組む。窓口は町民福祉課で一本化する。

放課後子ども総合プラン

町の計画は

西本

空き教室が無い

尾崎教育長

Q 放課後子ども総合プランは、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の一体的な整備を進める。児童クラブで4年生から6年生が増えた場合教室はあるか。放課後児童クラブと放課後子ども教室に児童の行き来は出来るか、ケガの対応は、行政側の連携は出来るか。

A 児童クラブは各学校とも空き教室がなく、図書室を活用する。放課後子ども教室に児童クラブの児童が参加するのが望ましい。児童クラブは「スポーツ安全保険」、放課後子ども教室は「全国町村会総合賠償補償保険」。社会教育課と町民福祉課の一本化は難しい。



東田布施児童クラブ

地方創生

本町の計画は

石田 修一

基本計画と連携して策定

長信町長



石田 修一 議員

Q 政府は地方創生を目指している。と認めた自治体に対して、税財政措置や規制改革で支援する考え。本町の地域戦略計画並びに地域活性化計画について尋ねる。特に駅前整備計画、空き家対策、来年4月麻里府小廃校後の麻里府地区の活性化について尋ねる。

A 駅前整備計画は町財政を左右するため、長期的視点で検討する。学生や近隣住民の交通が多い豆尾踏切の拡幅事業を来年度より着手。空き家対策は国の方針が出次第、実態調査し、具体的行動を展開する。麻里府地区の活性化は地域の皆さんと十分協議し検討する。



豆尾踏切



JR 田布施駅前

買物送迎サービス事業

利用状況と今後の運用は

石 田

登録者 25 人 今後も継続 町 長

医療・介護の制度改革

対応に向けた取組は

石 田

庁内の組織体制を強化 町 長

A 当初21人の登録者が現在25人（城南3人、西田布施9人、麻郷7人、麻里府6人）。福祉タクシー利用者も利用できるよ

Q 送迎サービス事業は平成26年7月より試行運転し、10月より町内5地区に分けての予約制による買物等の支援サービスを始められているが、現在の利用状況はどのようなになっているのか。また、今後において運用方法の見直し等あるのか、継続していくのか尋ねる。



買物送迎バス

うにしたり、予約も前日まで可能とする等努力している。これからも利用者の増加対策を検討しながら継続していく。

Q 地域医療・介護総合確保推進法が成立し、医療と介護を一体的に提供できる。在宅介護サービスや介護予防の取組がやりやすくなる半面、自治体の責任や仕事量は増加する。対応がスムーズに行けば混乱は無いが、遅れば問題が発生する。今後の取組を尋ねる。

A 関係機関と協議し進めている。課題も多く、担い手の育成や確保、組織づくりにより一定の期間が必要で、新たな制度に円滑に移行するために庁内の組織体制の強化を図り、地域の多様な支える力を結集して適切なサービスが提供できるよう事業実施に向けて取組む。

国保・一部負担金

減免等を問う

國永美恵子

周知不足を認識

長信町長



國永美恵子 議員

Q 国保には市町村が独自に行える減免制度がある。国保法では第44条の1、一部負担金を減額すること、2、一部負担金の支払いを免除することが町長独自に実施できる。

一部負担金の減免等は町民に周知が図られているか。また、44条に対する本町の基準を尋ねる。

A 一部負担金の徴収猶予及び減免は町のホームページに掲載してあるが、広く周知に努めておらず周知不足と認識する。法の趣旨に基づき規則

で規定するが不十分な内容である。国の具体的な減免基準が示されており、本町も適切な対応ができるよう準備する。

◇一部負担金とは

病気やケガをしたとき、医療機関等の窓口で保険証を提示すると、かかった医療費の一部を支払うだけで受診できます。これが一部負担金です。

審議会等の委員

選任を問う 國永

公募にも取り組む 町長

Q 本町の協議会、審議会等の委員は町内団体の代表者が選任される状況が主で公募が無いと思う。代表者選任では必然的に女性割合が少なく、町長みずから男女共同参画を否定することとなる。

審議会等の数、委員の男女比、選任方法と、町長の見解を尋ねる。

A 本年度の各種会議等の数は51。委員総数の20%が女性。男女共同参画プランの目標に達している。本年度は3委員会等で公募委員を設けた。今後も取り組んでいく。多くの方々に、男女共同参画の意義を理解してもらうため、今後も啓発活動に取り組む。

◎その他の質問

公文書管理について

田布施町奨学金条例

制度周知を 國永

広報に努める

尾崎教育長

Q 奨学金条例改正が議会に提案された。改正内容では貸付金額が大きく増額となる。

条例の目的達成と町民から喜んでもらえる制度になることを期待する。

制度周知は大事。どう周知されるのか。また、条例改正後の奨学金受給者は見込めるのか。

A 県内他市町の制度を調査し、本町と比較の結果、貸付月額が少ないとの結論となり、条例改正をさせていただく。

制度周知は広報は勿論、近隣進学先の高等学校へも行方。貸付金額も増やしており、申し出が増加すると期待している。しっかりと広報に努める。

■平成27年度からの奨学金額

区 分		奨学金額（月額）
高等学校又は 専修学校の高等課程	国公立	20,000円
	私立	25,000円
高等専門学校		30,000円
大学又は 専修学校の専門課程	国公立	50,000円
	私立	55,000円

平成 27 年度予算編成

町民の声を予算に

瀬石 公夫

戦略計画を策定し予算化

長信町長



瀬石 公夫 議員

Q 来年度の予算編成が進められているが、国の「地方創生予算」を活用すべく、予算の対応は。町民の皆さんの声を聞くと高齢化や耕作放棄地、有害鳥獣、空き家問題に困っておられる。また、ケーブルテレビや光ネットが利用できる問題など、予算措置が必要では。



26 年度当初予算書

A まちづくりに大きく影響する 2 法案が可決。「まち・ひと・しごと創生法」と「空家等対策の推進に関する特別措置法」であり、地域の実情に応じた計画を定める。「地方創生」は、町後期基本計画と地方創生戦略計画を連携して策定し、予算化していく。

国民健康保険

税率の見通しは 瀬石

税率を据え置く予定 町長

Q 平成 26 年度現時点で 7 カ月分の療養費、高額療養費等が支払われている。支払実績を踏まえた上で、平成 27 年度の国保税率の見通しは。

他市・町では一般会計から国保会計に法定外繰入れを行い被保険者の負担軽減を行っている。本町でも繰入れている。

A 平成 27 年度の国保税率は、今年度程度の増加率であれば対応できると見込めるため、税率を据え置く予定である。繰入金金は、国保加入者以外の理解を得ることが難しいのでは、多額の繰入れは好ましくないが、今後、町全体の財政状況を勘案し総合的に判断する。



国保啓発用パンフレット

麻里府小 143年の歴史に幕



麻里府小学校から1,223名の卒業生が巣立ち、地域の教育、文化、スポーツの拠点として大きな役割を担ってきました。

この春に麻郷小に統合

麻里府小学校は平成27年3月31日をもって143年の歴史に幕を閉じ、4月1日から麻郷小学校に統合することになりました。

麻里府小の沿革

麻里府小学校の沿革は明治5年（1872年）学制が施行された時に麻郷戎ヶ下（旧藩時代に土族の藩学堂であった成器堂が、上関第一小学として開設されました。この成器堂はもととも士族の子弟の教育の場であったので一般の子弟の通学は少なく、翌6年に浅海敬中の寺子屋を借用して別府小学として開設されたのが麻里府小学校の初めです。

明治10年（1877年）には尾津に新校舎が建築されて移転し、校名も麻里府小学と改称されました。

明治18年（1885年）には学区制の改正があつ

谷岡校長先生の話



「私が麻里府小に赴任してきた時の第一印象は、花がとてもきれいであったことと校庭に雑草がな

て、本校を麻郷村に設置して、麻里府小学は麻里府分校となり、その4年後の明治22年4月に町村制が施行され、麻里府は麻郷村より分離して馬島と合併して新しく麻里府村が誕生したので麻里府小学校が独立しました。

そして明治34年麻里府小学校に高等科が設けられました。

現校舎完成

昭和10年に現在地に木造の新校舎が竣工しました。現在のコンクリートの校舎は昭和40年にできました。

以来50年間「まりふっ子」は、この学舎で人生の基礎となる小学6年間の課程を大切に時を刻みいことでした。麻里府地区は学校や子どもに対し温かく優しいところだと思います。これからは、児童数も減りますが、児童数が少なく建物も老朽化しており、統合は避けて通れないと考えます。残りわずかですが、子どもたちの不安を軽くし自信を持たせて統合を迎えたいと考えています。」

栄光の数々

夢を育み、飛び立つ日に備えました。

平成の時代に入り、児童数が減少していく中で複式化が進んでいき、平成22年度以降完全複式（3学級）となりました。

その間、地域と一体となった花の栽培活動や環境美化活動に取り組み続け、県花いっばい運動県知事賞を3年連続受賞（24・26年）、環境美化教育最優秀校「農林水産大臣賞」として全国表彰されました（25年）。

麻郷小に統合

平成27年度の新入生は「0」。2年生2人、3年生2人、4年生4人、5年生3人、6年生1人、合計12人。学校運営は全校児童の激減により極めて厳しい状況になってきました。

学校で子供同士学び合い、高め合うことが困難になり、学校施設の老朽化も進み学校の維持が難しくなりました。かくして麻里府小は閉校し、麻郷小へ統合となりました。

指定管理者施設の紹介



のんびらんど・うましま

地域の農林水産物や特産品等の販売による農林水産業、地場産業の振興と地域情報の発信により交流の場となっている。安くて、新鮮で、安全な田布施産品を、地元、近隣の消費者に提供し、地元産品の良さを広めている。

① のんびらんど・うましま
レクリエーション、研修などの幅広い活動を通して、人々が交流できる場を確保し、離島の振興を図っている。町内外から多くの来島者があり、観光や自然に親しむアウトドアの場となっている。



地域交流館

② 田布施町 地域交流館



たぶせ特産加工センター

③ たぶせ特産加工センター
町内産農産物を加工しての特産品開発や地産地消を推進し、ジャム・ジュース・味噌等の製造を行ない、町内外12カ所で販売中である。

◎ 特産加工センター

農業経営や農家生活の改善、地域連帯感の醸成を行ない、住民生活の向上を図っている。



小行司特産加工センター

④ 小行司特産加工センター

田布施町の農産物を中心に調理・加工した惣菜（うどん・弁当）、菓子、コンニャク、味噌、漬物等の農産物加工品を製造・販売している。



さくら園

⑤ 田布施町 心身障害者福祉作業所「やぐら園」
在宅の心身障害者で、事業所等に雇用されることが困難な対象者に、その能力に応じた授産指導や作業を通じた生活訓練等を実施し、心身障害者の福祉の向上を図っている。園生や保護者とも連携信頼関係を築き、ふれあい心をもつて援助を行なっている。



高齢者介護予防センター

⑥ 田布施町高齢者介護予防センター

高齢者の介護予防や介護知識、介護方法の普及を図っている。コミュニケーションを大切にし、気軽に相談や要望などができる環境づくりを行ない、集団活動を通して社会的孤立を防ぐとともに閉じこもり防止の指導を行なっている。

● 田布施町スポーツセンターの指定管理者の指定は平成26年度から3年間で再指定している。

◇ 指定管理者制度とは
公の施設（福祉施設、文化施設、体育施設等）の管理に関する権限を地方公共団体が指定する者（指定管理者）に委任するもの。指定には議会の議決が必要。施設の設置者である地方公共団体は、管理権限の行使は行わず、設置者としての責任を果たす立場から必要に応じて指示等を行う。

議会だより

123号を読んでの感想です

◆お礼◆

議会広報広聴モニターの皆様にはご多忙な中にもかかわらず、毎号貴重なご意見やご感想をいただき厚くお礼申し上げます。

庁舎と老朽施設

河内 フサ子

町民歌が流れてくると頭に浮かぶのは本庁舎である。私は昨年、53年振りの同窓会を行ったが、現小学校舎には何一つ思い出に繋がる物はなかった。自然環境も随分変わり、最近、日本列島様々な所で起こる自然の脅威をまざまざと見てきた。

利便性、安全性が求められている今、現庁舎が適合しているか否かは一町民の私には解らない。改修か建て替えかは何十年後を見据え、議員さんの良識の判断に委ねたい。

また、老朽化していく施設も問われているが、私の地域では公民館を中心に行事が動いている。利便性の面も100%満たす物ではないかもしれない。少子高齢化の波は間違いないが、城南地区民が一つになれる唯一の場所。維持管理費は、どれくらいかは解らないが、カルテでいかなる結果が出ようと地域住民の意を一番に考えて欲しいと思う。

田布施川の水位

森田 明

ウォーキングの良い季節。好みの場所は田布施川の土手道。春は花見を兼ね、夏は木陰や涼を求める。四季折々の風景、青草の香り、秋は落ち葉や枯れ草を焼く臭いが良い。浚渫工事が終わる川も整備された。田布施川の水は飲料水、農業用、工業用と大切な資源である。水位の調整はふるさと詩情公園の東と庄山の堰で調整されていると思われる。先日並々と水を湛えていたが至る所で川底が現れていた。

稲作、台風、大雨などで調整されると思うが、急な調整のためか逃げ場を失った大きな鯉が何匹も横たわっている。年に何度か目にする光景だ。二級河川の管理者は県であるが水の調整も県は不明だ。田布施町民憲章に『豊かな心を養い』と謳っているがこの状況は如何なものか。調整が県であれば情報を共有化し対応を講じて欲しいし町であれば尚更である。

町財政と将来について

古川 恒雄

25年度決算で、財政健全化へまた一歩前進というタイトルが目に残りした。確かに前年度より改善が見られますが、24年度の実質公債費比率は県下ワースト5位ということで健全化にはまだまだの状況です。借金を何とか減らして行かないと、将来に重荷を残すことになることは明白です。その為はどうすべきかは、皆、分かっていると思いますが、収入を増やして支出を減らすことです。収入を増やすことはすぐには難しいことですが、支出を減らすことは可能だと思えます。厳しい見方をすれば、人件費や他の経費等、見直す余地があるのでは？、身を切る努力が足りないのでは？見えてきません。真剣な計画と実行をお願いします。それから、役場本庁舎の建て替え案が出ておりますが、出来るだけコストの削減を行う方向で、充分検討していただきたいと願っております。

小学校の統廃合に思う

中村 克也

麻郷小学校のフリースクールに出掛けた。麻里府小学校から5人の生徒が体験合流した生徒発表会となった。麻郷小学校の3学年生徒は2クラスだが、私が小学生の頃に比べて明らかに少人数で、地域の将来に不安を覚える。そんな中で麻里府小から来た児童は発表の成り行きを凝視し、体験学習よろしくおとなしく輪に加わっている。麻郷小の生徒が入れ代わり立ち代わり、活気ある発表をするのを見て、麻里府小で同じ学習するにしても、活気さかなり違う体験をしたことだろう。

スクールバスなら麻里府小麻郷小間は10分程度の距離。行政上の統廃合という課題もさることながら、生徒自身の学習意欲と成果をまずは第一とすべきではなからうか。

教育の成果と機会均等が何よりも最重視されるべきで、早い統合の実現を期待する。

尾津海岸の思い

鷺 典行

今から六十年前の尾津海岸は、きれいな砂浜と松林のある素晴らしい海辺であった。

夏には、飛び込み台を作り、水泳大会、馬島への遠泳大会が行われる活気に満ちた浜でした。

しかし、経済発展につれ、海辺はコンクリート化が進み、景観、生態系は大きく変わってきた。

そして、この度の港、海岸保全工事で、どれだけの自然を失うのか、どれだけの効果があるのか等、様々な考え方、意見もある。

海に囲まれている国土を守るには、どれだけのコスト、税金を使うことになるのか？

とは言っても天災は予告なしに牙をむき、大きな爪痕を残す。

そのための備えは必要であろうが、無用の長物になりはしないか、一考が求められる。

時の流れに失われたものの、得たものは何か？あゝの浜がなつかしい。

猫は家に付く



木本 睦博

我が家には、三毛、きじ、白黒の三匹の猫がいる。それぞれ縁があり私の家に迷いこんだ猫だ。隣家が転居の際、車に乗せ連れて行ったものが数日して主のいない家に帰ってきた。再三連れ戻しに訪れたが、数キロの道を舞い戻る。

猫嫌いの私も空き家で何日も主の帰りを待っている猫に情が移り、餌を与えるうちに我が家の家族となった。犬は人に付き、猫は家に付くという例えどおりだ。今では食いしん坊の妻と魚の取り合いをしている。私もすっかり猫好きになつてしまった。猫と話ができたらしいな。

東京都「田布施町」



松田 規久夫

西の京は山口。田布施町は距離に関係なく東京へ編入できないか。東京都には遠く南に小笠原諸島がある。都は尖閣諸島の購入を試み、都に編入しようとした。西京でなく東京、田布施町は東京都の飛地とならないか。

飛地が実現すれば話題性もある。本社、東京のネームバリューは素晴らしい。飛地が実現すれば IT 企業が中心に事業所の新規開設が多数見込める。町が動けば、人は移動しなくてよい。新たな雇用が生まれ若者は移住の必要がなく、住み慣れた美しいまち田布施で生活でき活性化が実現する。初夢の可能性は。夢かな。

議員リレー随筆

熊毛郡町議会議員合同研修大会

10月30日上関町中央公民館で熊毛郡町議会議長会主催の熊毛郡町議会議員合同研修会が開催されました。講師に山口県農林水産部企画流通課の野村太郎氏を招き、特産品開発のノウハウについて県下各地の具体的な事例を交えた話を聞きました。「6次産業化」について有意義な研修でした。

山口県町議会広報研修会

山口県町議会議長会主催の町議会広報研修会は11月28日に田布施町商工会サリジエで開催され、県内6町の広報委員が参加して研修に励みました。

山口新聞特別編集委員の佐々木正一氏を講師に迎え、日々めまぐるしく移りゆく国内外社会の動きを見つめるプロの厳しい目で各町議会広報をクリニックされ、見出し、レイアウト、表現など細部にわたる指摘を受けました。



広報研修会 (11月28日)

◇お詫びと訂正
本紙第123号に次の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
・8ページ
高川議員一般質問
地方創生
誤 安部改造内閣
正 安倍改造内閣
・11ページ
國永議員一般質問
國永議員一般質問
誤 影響最小限に
正 影響最小限に

編集後記
平成27年の新春を迎え、謹んで新年のお祝詞を申し上げます。
◇今年は昭和30年に1町3村が合併して新生田布施町として誕生60年、還暦を迎えました。
◇歴代の町長はじめ多くの町民の方々が営々として築かれ、培われてきた歴史の上に新たな発展の節目にしていかななくてはなりません。
◇本紙は1984年創刊以来昨年満30年を迎えました。近年の地方自治法改正に伴い田布施町議会で議会広報広聴調査特別委員会を正式な常任委員会として議決し、本年3月議会から新委員会が発行することになりました。これからも本紙をよろしくご愛読ください。(高川)



▲携帯で簡単にアクセスできます